

Vers.1. (2017年3月17日)

[1] 40 ページうしろから 2 行目

「平均収入曲線は」

→

「最適点では平均費用・限界費用・限界収入は等しくなるが、これに対して平均収入曲線は」

[2] 52 ページうしろから 3 行目

「傾きは徐々に急になってゆく」 → 「傾きがマイナスになる」

[3] 53 ページうしろから 5 行目

「人口が均衡点[E*]をこえると」 → 「人口が均衡点[E*]の横座標をこえると」

[4] 162 ページ最後の行

「縦軸すなわち」 → 「縦軸の値すなわち」

[5] 163 ページ 2 行目

「縦軸すなわち」 → 「縦軸の値すなわち」

[7] 180 ページ図 7・2

「S=MR」 → 「D=MR」

[8] 194 ページ図 7・6

「価格効果（マイナス）＝需要側がつける価格」 → 「価格効果（マイナス）」

[9] 194 ページうしろから 4-3 行目

「たとえば、供給量が一〇単位から一一単位に増加するとき、需要側がつける価格が一〇〇円下がったとすると、限界収入は一〇〇円×一〇単位で一〇〇〇円下がる」

→

「たとえば、供給量が一〇単位から一一単位に増加するとき、需要側がつける価格が二〇〇〇円から一〇〇円下がり一九〇〇円になったとすると、限界収入は、数量効果一九〇〇円分から価格効果（一〇〇円×一〇単位で）一〇〇〇円分を引いた九〇〇円となり、需要側がつける価格より小さいことがわかる」